

# 平成28年度英真学園高等学校 学校評価

校長 大目美日古

## I. めざす学校像

「みんな ちがって みんないい」(金子みすゞ 『わたしと小鳥と鈴と』より)の合言葉のもと、教職員・生徒一人ひとりが、自分とは違う他者の個性・特性を認め合い、共生・共助しながら楽しく豊かな学園生活を過ごすことができる学校をめざす。

楽しく豊かな学園生活を過ごさせるために、確立した基本的な生活習慣を持ち、社会的規範やルールやマナーを守り、他者の模範となる生徒や社会的組織のリーダーとなる生徒を創り出せる学校をめざす。

また、このような学園生活のもと、生徒一人ひとりが、基礎的な学力・知識を確実に身に付け、さらに発展的な学力を身に付けることができるような学習環境づくりを行なうことにより、社会で生活できる人間力や問題解決能力を養う学校をめざす。

地域と連携を持ち、地域から信頼され、愛される学校をめざす。

## II. 中期的目標

### 1. 生徒の豊かな人間性を育み、社会で有用な役割を果たせる人間力の育成を図る。

#### 平成28年度の重点目標

- ①基本的な生活習慣の確立をはかり、遅刻・欠席をしない指導を行なう。
- ②転学や退学する生徒の減少を図る。
- ③社会で活躍できる力をつけるため、HR活動・生徒会活動・クラブ活動の活性化を通して、生徒リーダーの育成を図る実践を行なう。

#### その他

- \* 挨拶の励行、学校のルールや社会規範を守る自律心を持たせるように指導する。
- \* 「みんな ちがって みんないい」の理念のもとに、一人ひとりの個性・特性を理解しあうことにより社会共生できる力を育む実践と人権尊重の意識を高める実践を行なう。
- \* 自己をいろいろな角度から知るという「自己発見」に取り組みせる実践を行なう。
- \* キャリア教育の実践により、自己実現をめざしてのライフプラン作成能力の育成を図る実践を行なう。

### 2. 生徒の学力育成と進路保障を図る

#### 平成28年度重点目標

- ①卒業時の進路決定率を高める取り組みを継続して進める。
- ②大学進学者100名以上を目指す。

#### その他

- \* 生徒の学力の到達度の正確な把握と個々の生徒の学習状況に応じた指導の実践を行なう。
  - ・ マナトレを利用した基礎学力の向上の推進を行なう。
  - ・ 夏・冬・春に進学講習会、夏に進学合宿、グレードアップセミナーの開講により更なる学力向上をめざす。
- \* 教員の授業力の向上と教員の連携による授業の充実によって「わかる授業」の実践を行なう。

### 3. 地域に根付いた学校を目指す。

- \* 淀川の環境保全活動や地域の行事への生徒参加により、地域に愛され、地域に根付いた学校をめざす。

#### 4. 教職員全員が渉外活動に協力をする。

\* 本校の継続的発展と安定した経営基盤を築くため、生徒募集に対し教職員全員が何らかの形で参加できる体制を整えていく。

\* 教職員の姿、生徒の姿を見てもらい、“行きたい学校”“行かせたい学校”となるよう取り組む。

### Ⅲ. 自己評価の結果と分析・学校評価委員会からの意見

学校評価（自己評価） 平成 29 年 3 月実施分

教職員 調査対象 59 名 回答数 53 名

調査方法 4 段階評価

A：よくあてはまる

B：ややあてはまる

C：あまりあてはまらない

D：まったくあてはまらない

#### 調査項目の分析

28 年度も 27 年度と同じく、年度当初の方針会議や職員会議において校長や各分掌から提議された重点的な取り組み（重点目標）を加えて 46 項目にて学校評価（自己評価）を行なった。

28 年度において肯定的な結果が出ている項目は 30 項目あり、特に重点目標として取り組んだ 5 項目については、教職員は全て高い評価を行っている。特に、基本的な生活習慣の確立としての遅刻者数を減らす取り組み、進路未決定率を下げる取り組み、大学進学者数を 100 名以上とする取り組みでは 90%以上が、また生徒リーダー育成の取り組みでは 84%以上、転学・退学者を減らす取り組みでは 77%以上が取り組みを肯定的に捉えている。

その他肯定的に捉えているものの内、70%を超えるものは、教育面では、人権教育・環境教育・キャリア教育・教員の授業の事前研究・授業の進度があげられる。生徒指導面では、組織的な生徒指導体制、家庭との連携、カウンセリング体制、進路指導体制と保護者との連携があげられる。組織面では、教員と事務職員間の連携が潤滑であること、地域との交流、生徒募集への組織的取り組みがあげられる。50%以上が肯定的としているものは、教育課程の実践、教員間の連携による教育実践、学校ホームページの活用、学年便りや学級通信による情報公開、情報モラルの指導、生徒把握と生徒の実態に合わせた学習指導があげられる。

肯定率が低かった項目のうち、生徒への対応に関するものとしては、学校の校訓をどのように実現させていくか、支援を要する生徒、欠席がちな生徒に対する取り組みについて、学校組織としては、組織運営や危機管理体制、研修と研修成果の共有について改善に取り組む必要性がある。

また、学校組織として、管理職が意識を持って率先して取り組むことによって、肯定率の低かった項目を改善し肯定率を高めていかねばならない。

#### 学校評価委員会からの意見

校務運営委員会において平成 28 年度学校評価について検討し学校評価委員会とした。

- ・教職員は、学校運営・組織運営に於いていろいろな場面でしっかりと頑張っている。
- ・教職員としてしなければならない業務についてはできており、自己評価の肯定度は高い。
- ・平成 27 年度より自己評価の肯定的とする部分ところが低下している。
- ・学校管理職の意識をもった取り組みや管理を進めないといけない。

### 学校関係者評価について

P T Aの保護者代表としての役員（会長・副会長2名・会計・書記・会計監査）・同窓会の役員（会長・副会長）から、学校評価（自己評価）に対する評価と意見をいただいた。

- ・重点目標を中心として、教職員の皆さんには良く頑張っていた。
- ・生徒の姿を見ると年々良くなっている。
- ・学校行事・クラブ活動で生徒達が積極的に取り組んでいる姿が見える。
- ・学校を訪れた時にクラブ員が清々しく挨拶をしてくれる。
- ・学校に落ち着きがあり、子ども達が楽しく学校生活を過ごしている。
- ・基本的生活習慣の確立においての目標数値はもう少し高くても良いのではないか。
- ・今後もこのような雰囲気のある学校であり続けるように努力をして欲しい。

また別に、学校評価の数値だけでなく、どのようなもの・方法を用い、どのような形で取り組んだかがもう少し見える形でないと評価しにくいところがあるとの意見もいただいた。

### 4. 本年度取り組み内容および自己評価

中期的 目 標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	達成状況と自己評価
1 生 徒 の 豊 か な 人 間 性 を 育 み  社 会 で 有 用	基本的生活習慣の確立	遅刻する生徒の減少を図るため、生徒指導部・学年が中心となり目標値を設定し、達成の為に取り組んだ。 全学年による無遅刻週間の設定 学年による無遅刻週間の設定 遅刻者に対する指導の励行	月間遅刻統計の数値	27年度は3学年あわせて年間1418件あったので28年度は1200件を目標とし、最終結果は1248件となり、目標に近い結果を残せ、全体の数値としては減少させることができたが、一部の月において目標数値達成に至らない月があった。
	転学・退学者数の減少に取り組む	学年ごとに転学・退学者率の減少を図る目標値を設定し、達成に向けて取り組んだ。	転学・退学者率	28年度は、全学年で転学・退学者数の減少に取り組み、27年度より大きく減らすことができた。26年度全体で8.2%であったが、27年度は全体で5.5%に減少、さらに28年度において4.4%に減少させ目標を達成できている。
	生徒リーダーの育成	生徒会活動、クラブ活動、HR活動においてリーダーとなる生徒を育成す	クラブ合同合宿参加クラブ数・生徒数	生徒会活動においては、執行部の取り組みが良く、行



				ったとの結果がでている。
2 生徒の 学力 育成と 進路 保障を 図る	大学進学者数の増加を図る	進路指導・進学指導をしっかりと行い大学進学者数を三桁以上とする。	学進学者数 進学者総数	28年度において大学進学者が115名、短期大学進学者17名、専門学校進学者100名を数え、上級学校への進学者が232名となり毎年増えている。大学進学者についても、三桁の目標を達成した。
	進路未決定率の減少	卒業時に進路を未決定のまま卒業する生徒を7%以下にする取り組みを行なう。	進路決定率	キャリア教育推進の効果と進路指導部及び学年教員団の細やかな進路指導により28年度は進路未決定率は、目標の7%以下を大きく下回り1.4%を達成することができた。
	基礎学力の向上を図る	全学年を通して基礎学力の向上を図るべく、基礎学力教材の「マナトレ」に授業の一部を割いて取り組む。また進捗により、確認テストを行い、到達度を確認し、不足している生徒には個別に指導にあたる。	「マナトレ」の評価 到達度と取り組み 状況	「マナトレ」に取り組むことにより、勉強に取り組む習慣の構築、意識がついてきている。 基礎力テストの成績評価到達度も改善されてきており、Bゾーンに入る生徒も出てきている。またDゾーンにおいてもD1ゾーンが増加しており、学力の向上が見られる。 講習会・進学合宿については年度当初の計画通り実施できた。
	文理特進コースを中心に、進学講習会、進学合宿、グレードアップセミナーの開講と学習室における自学自習	生徒の参加率・出席率	グレードアップセミナーについては進学意識の高い生徒が参加し目的は達	

		の習慣を養う。		成できた。 学習室については、担当する教員を決め管理し、利用する生徒も学年ごとに担任の指導に従い利用していた。
3 地域に根付いた学校を目指す	淀川環境保全活動(CUP)の実施  十三地域との連携を図る	毎年実施しているCUP(淀川河川敷の環境保全活動)を実施する。 学校、生徒会、PTA、地域団体による取り組みを行なう。 CUPのためのフォーラムを開催する。  十三地域の諸団体との連携と諸行事への参加	CUPへの生徒参加 CUPでの回収ゴミの量	28年度については前日降雨があり、開催当日の会場の足場が悪く環境保全活動(清掃活動)は中止となった。 CUPフォーラムについては国土交通省近畿河川事務所と連携を取り実施した。  学園祭において地域の小学生の子供会を招待した。 放送部が淀川区民祭りの放送業務を担当するなど十三地域の行事への参加を行なった。
4 教職員全員が涉外活動	教職員全員が涉外活動に協力する	生徒募集活動にかかる行事に全教職員が協力して取り組む (中学校対象入試説明会・塾対象入試説明会・学校見学会・オープンスクール・大阪私立学校展・イブニング説明会・ガールズフェア・その他の入試説明会)	各行事での教職員の参加率 中学生・保護者の参加者数	オープンスクール・学校見学会において、全教職員がそれぞれ任務・業務分担を行い取り組んだ。 また、今年も生徒会の生徒やクラブ生徒が積極的に役割を果たし活気のあるものとなった。 中学生・保護者の参加数も昨年度を上回ることができた。

<p>動 に 協 力 す る</p>			<p>27年度より実施したイブニング説明会を28年度も実施した。これは、土曜日の説明会に参加できない保護者を対象に、生徒の通学圏内の主要な15箇所で、仕事終わりに相談に寄っていただけるよう、夜間の入試説明会を開催した。初年度ということで各会場での相談件数は多くは無いが、今後も開催していきたい。</p> <p>女子生徒の受験生増を目的として女子対象の説明会を開催した。</p>
--	--	--	--

## V. 今後の目標

生徒が生き生きとした学校生活を過ごせるように、教育・学習活動、生徒指導、特活指導、人権教育、支援教育、キャリア教育の推進と充実を図る方策と体制の確立をめざす。

生徒の人間力・問題解決力を高める取り組みを行い、社会に有用な人材として送り出せる取り組みをさらに進めていく。

「未来探しの宝箱」のキャッチフレーズに即して、生徒たちに様々な知的好奇心や関心を持たせるとともに、さらに学校（大学・専門学校）・職業体験等を通してキャリア教育の実践を行い、卒業時における進路決定率をさらに高める取り組みを進める。

入学してきた生徒に対し、きめ細かく対応することにより「面倒見のよい英真」の声をより高めるために、転学生・退学生を減らし卒業率・進級率を高める取り組みを進める。

社会的規範を守り、他者に対する慈愛の心が溢れた人権意識の高い生徒の育成に取り組み、苛めの無い楽しく学習に取り組める学校づくりを進める。







